



●核融合科学研究会ニュース 33●



CONTENTS

核融合科学研究会
平成18年度評議員会・総会
開催される 2

核融合研究会
第18回 講演会報告 3



編集後記 4

核融合科学研究会 平成18年度評議員会・総会開催される

核融合科学研究会の評議員会ならびに総会が、平成18年5月16日（火）多治見市のセラミックパーク MINO において河津譽四男会長（当時 中部電力株式会社 常務取締役技術開発本部長）をはじめとして、会員各社、顧問の先生、及び来賓を御招きして、38名の出席のもとに開催されました。

まず、河津会長が挨拶を述べられた後、河津会長のもとに議事が進行されました。

はじめに第1号議案の平成17年度事業報告および決算報告について、小森彰夫運営委員長（核融合科学研究所）より詳細な説明があり、その後、日本ガイシ株式会社取締役専務執行役員本部長 浜本英嗣氏より監査結果の報告がなされ、了承されました。事業報告の中で小森運営委員長は例年同様、核融合科学研究会講演会、見学会を開催したこと、研究所主催の国際土岐コンファレンスの支援を実施したこと、また、総合研究大学院大学の核融合専攻の学生や特別研究学生に対し、奨学金や研究連絡打合せ旅費の援助を実施したこと、核融合科学研究所が全国レベルで実施した核融合科学研究所の一般公開（平成17年8月20日）にかかる費用の一部に関して助成を行ったこと等が報告され、承認されました。

続いて、小森運営委員長より、第2号議案の説明がありました。

第2号議案は平成18年度事業計画および収支予算についてですが、例年通り、核融合科学研究会主催の講演会や見学会を企画、実施すること、また、例年通り、核融合科学研究所主催の国際土岐コンファレンスを支援すること等、核融合科学研究所の一般公開を昨年同様支援することなどについての提案がされ、了承されました。

続く第3号議案では、評議員の改選が行われ、会員企業の異動に伴う評議員、監事の交代などにより、新評議員（案）が事務局より提案され、新評議員が了承されました。その後、会長選出にうつり、前年同様、中部電力株式会社常務取締役技術開発本部長（当時）河津譽四男氏に会長をお願いすることが満場一致で承認されました。

議事終了後、本島修顧問（核融合科学研究所長）より、研究所の活動状況について説明がありました。大型ヘリカル装置（LHD）についての報告を中心に研究所の現況について報告があり、会員の関心は非常に高く、熱心に説明に聞き入っていました。

引き続き、特別講演会が開催されました。講師には国立天文台 野辺山宇宙電波観測所所長 国立天文台教授／総合研究大学院大学教授／東大大学院理学系研究科教授（併任）の坪井昌人氏をお迎えして、「電波望遠鏡が見た宇宙」と題し、タイムリーな講演を頂き、宇宙のロマンに思いを寄せ好評を博しました。（講演内容概要については後日別掲いたします）

特別講演会終了後、総会出席者の他に土岐市役所、核融合科学研究所の職員、その他関係者なども集い、懇親会が開催されました。会場には大型ヘリカル装置等に関するパネルなどが展示され、会員が研究所員に質問するなど、相互の交流が図られ、盛会のうちに終了しました。



核融合研究会 第18回 講演会報告

核融合科学研究会第18回講演会が平成19年2月16日（金）セラミックパーク MINO のイベントホールにて朝日大学 テニス部コーチ Brenton Barker（ブレントン バーカー）氏をお迎えして、行われました。



B. Barker 氏は、1977年オーストラリア・アデレードに生まれ、幼少期はフランス、スウェーデンなどで育ちました。1997年テニス奨学生としてジョージア大学で学び、オーストラリアに帰国後、スポーツ・メディスン・オーストラリア、クィーンズランド大学にてスピード&パワーを専攻されました。A.I.S（オーストラリア国立スポーツ研究所）を卒業され、公認のテニスコーチです。

アメリカで3年、ヨーロッパで3年、プロコーチをされ、ITF 連盟のコーチとして、教え子達と共に4大会（全豪、全仏、全英、全米）を経験されています。

2004年の国際交流員制度で岐阜県スポーツ科学トレーニングセンターに勤務され、2006年9月より朝日大学契約職員となり国体強化のためジュニアからプロまでが所属する T.R.S（TEAM RISING SUN）ヘッドコーチを務めておられます。

今回の講演は、「The 8 Mental/Physical Skills for Success in Tennis」（テニスにおける8つの精神的・身体的スキル）と題して行われました。

まず、講演会の冒頭で、司会を務められた西村教授による趣旨説明がありました。これまでに行われてきた学術講演会とは多少異なり、テニスプレーヤーとして最高の力を引き出すために何が必要か？というお話を聞いて、仕事で成功を修めるために何が必要かを学ぶ勉強会である。と紹介されました。講師の Brenton Barker（ブレントン バーカー）氏は、岐阜県スポーツトレーニングセンターのヘッドテニスコーチ、朝日大学テニス部コーチ、さらに国体強化のためのジュニアからプロまでが所属する TEAM RISING SUN のヘッドコーチとして幅広く活躍されています。今回の講演では、Barker 氏が来日されてテニスの

コーチとして感じたことを中心に、8つのポイントを指摘されました。以下に、簡単に紹介します。

- ① action focus（実際の活動に焦点を合わせる）明確な課題を持つ。長期にわたる目標にいたるために、日ごと、週ごとの目標を決める。そして、結果より課題の達成が大切。
- ② creative thinking（創造的な考え方）目標までの道のりを想像する。前向きな自己イメージを作る。成功のイメージを常に持ち視覚化しておくことが大切。
- ③ productive analysis（前向きな分析）「内なる声」に耳を傾ける。否定的な考えを前向きなものにする。自分の弱点を知り、成長するための手助けにすることが大切。
- ④ keeping cool（冷静でいること）緊張は自然な現象。精神的にも肉体的にもリラックスを学ぶこと。深呼吸すること。プレッシャーを受ける状況でも自分のペースでのんびりやること。リラックスすれば、サクセスゾーンに！
- ⑤ concentration（集中力）自分の注意に集中。前向きでシンプルなキーワードを使う。
- ⑥ emotional power（感情の力）感情を抑えるのではなく、感情に反応する。腹が立ったりイライラしたら、もう一度集中する。納得するまで練習し、試合中に受けるプレッシャーを克服する。
- ⑦ re-energizing（元気を出すこと）自分の考え方を活気あるものにする。健康でいること。予備バッテリーを持てば、気が滅入っても頑張り続けることができる。
- ⑧ consistency（一貫性）プレッシャーの中でも自分の計画を続ける。予期せぬ事態に対しても常に準備しておく。

講演は、基本的に英語で行われました。司会の西村教授が、ポイントごとに日本語の解説を加える形式で、参加者への配慮が行われました。時折、海外と日本のテニス教室



の違いを面白おかしく紹介し、はじめは緊張感が漂っていた場内を和ませる場面がありました。海外のテニス教室では、生徒が感情をそのまま表すので、ラケットを折ってしまうことがしばしば起こるそうですが、日本のテニス教室では、生徒が「我慢」するので、ラケットを折ってしまう場面に全く遭遇しないそうです。Barker氏は、感情を抑えるのではなく、うまく利用することが大切であるとわかりやすく解説されました(⑥の内容)。また、試合など緊張する場面で上手にリラックスするための深呼吸法を紹介し、参加者全員で実践しました。息を大きく吸うときに「sun, power, motivation」など、ポジティブなことをイメージする。そして、息を吐くときに「stress, tension, nervous」などネガティブなことをイメージする。これを数回繰り返しました。Barker氏自身も講演で緊張したときに実践したそうです。私自身はテニスの試合に参加することがありますので、自分のテニスのことに当てはめながら講演を聞いてしまいました。特に①-③のポイントは、大変勉強になりました。「イメージを持つ」または、「可視化する」ということの大切さは、印象に残りました。

講演の次の日に、核融合科学研究所のテニスコートでテニス教室が行われました。Barker氏と大森俊和氏(朝日

大学体育会硬式庭球部監督)、さらにBarker氏が指導され、現在日本テニスランキング24位の黒田祐加さんの3名で24名の参加者を指導いただきました。Barker氏のレッスンメニューは、大変ユニークなものでした。午前中は、準備体操の後、縄跳びやラダー(はしご)などを使ったトレーニングが中心で、サービスの練習や4人でのミニゲーム以外でラケットを使うことはあまりありませんでした。

午後からは基本的なストローク練習などを行いました。常に課題が提示されて、ただボールを打つのではなく、目標を意識しながらの練習を行いました。いろんな形で遊びが取り入れられて、参加者が楽しんでプレイしているというのが、Barker氏のテニス教室の特徴と感じました。参加者からも「日本の一般的なレッスンとは、メニューの内容や順番がだいぶ違って、楽しかった」という声が聞かれました。

最後にこのレポートをまとめるにあたり、Barker氏の指摘する8つのポイントは、テニスだけでなく、仕事や日常生活においても大変重要で役立つものであることを、私自身、再認識することができました。成功のイメージを常に持つように心がけようと思います。

(文責 核融合科学研究所 永岡賢一)

4



編集後記

平素は核融合科学研究会の活動に格段のご高配を賜りまして、ありがとうございます。

会員の皆様には、平素より核融合科学研究会および核融合科学研究所の研究活動をご支援いただいておりますこと、本当に深く感謝申し上げます。核融合科学研究会も土岐地区に事務の拠点をうつして、早1年以上たち月日の経過の早さを実感しておりますので、今後の活動(講演会、見学会等)でご要望などあれば事務局までご意見お寄せくださいませ。

今後とも、当研究会の活動ならびに核融合科学研究所へのいっそうのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

核融合科学研究会ニュース
第33号(2007年3月)

融 會

編集・発行
核融合科学研究会

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6

TEL 0572-58-0622 / FAX 0572-58-0626

E-mail: yu-kwai@tcp-ip.or.jp

URL: <http://www.nifs.ac.jp/yu-kwai/index.html>